2013年度　上期決算説明

2013年11月22日

鬼怒川ゴム工業株式会社

KINUGAWA

1. 2013年度
第2四半期決算状況と業績見通し

2. 取組み

KINUGAWA

2013年度　第2四半期決算状況

2013年度 第2四半期決算のポイント

➢ 前年同期比で増収増益（経常利益ベース）

■ 売上高

13年度上半期の連結売上高は増収

地域別には、米州･アジアで増収、国内は減収

米州　：主要得意先の生産台数の増加
　　メキシコ拠点の生産車種増加

アジア：タイでの生産車種増加

■ 利益

営業利益は国内売上減少と新車立上げに伴う一過性コスト増により減益となったが、経常利益は為替差益等により増益

KINUGAWA

2013年度 第2四半期決算概要

➢ 増収増益（経常利益ベース）

（単位：億円/未満四捨五入）

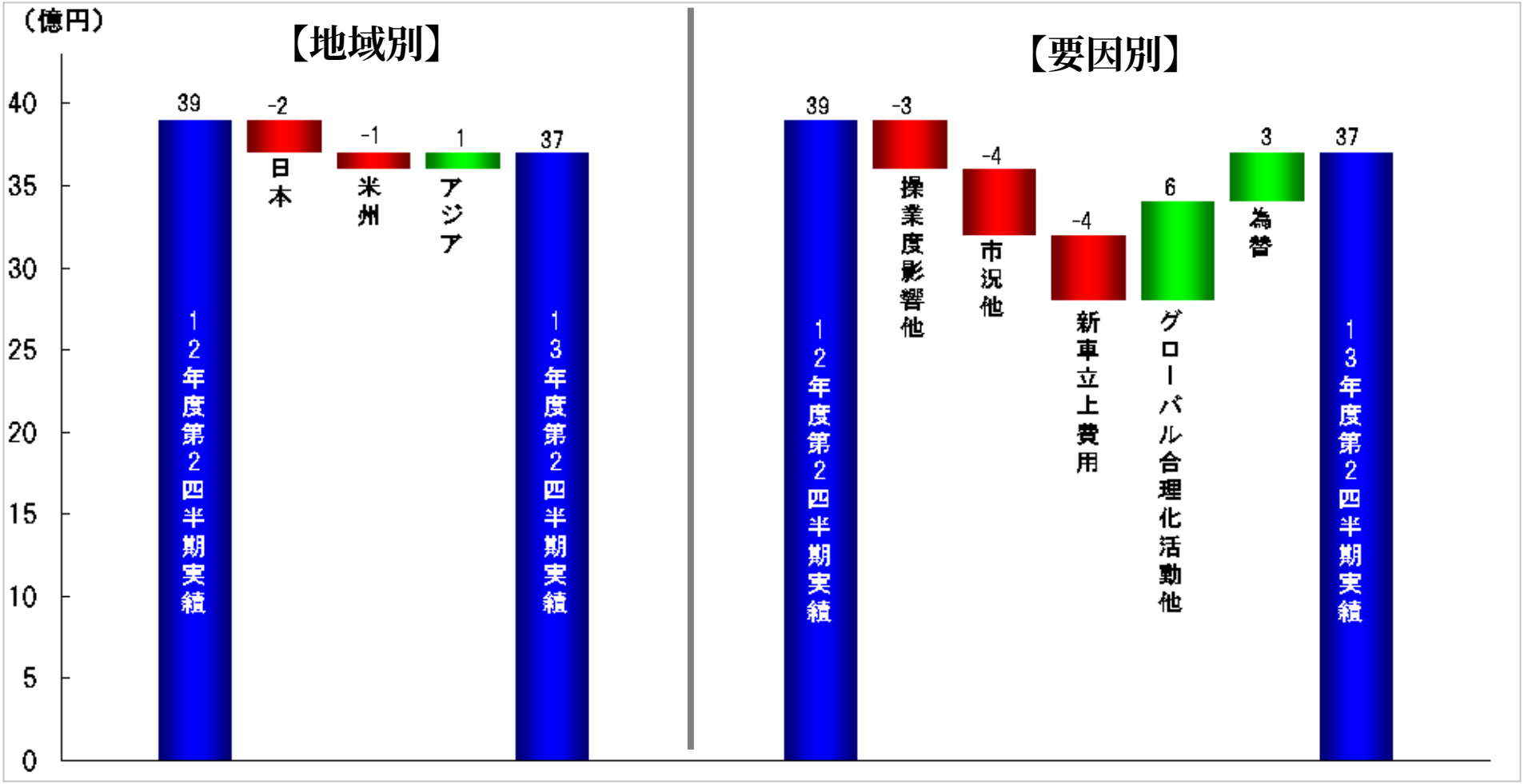
	2012年度 第2四半期	2013年度 第2四半期
売 上 高	345.0	364.9 (106%)
営業利益	39.3	36.8 (94%)
率	11.4%	10.1%
経常利益	39.4	40.4 (102%)
率	11.4%	11.1%
当期利益	22.3	22.8 (103%)
総 資 産	490.7	577.1 (118%)
自己資本	255.2	289.7 (114%)
率	52.0%	50.2%
借入金残	69.1	84.5
DEレシオ	0.3	0.3

前期BS項目は3月末。（ ）内は前期との比率。

KINUGAWA

営業利益変動要因（地域別・要因別）

➢ 国内売上の減少、新車立上げに伴う一過性コスト等の減益要因はあったが、グローバル合理化は着実に実施

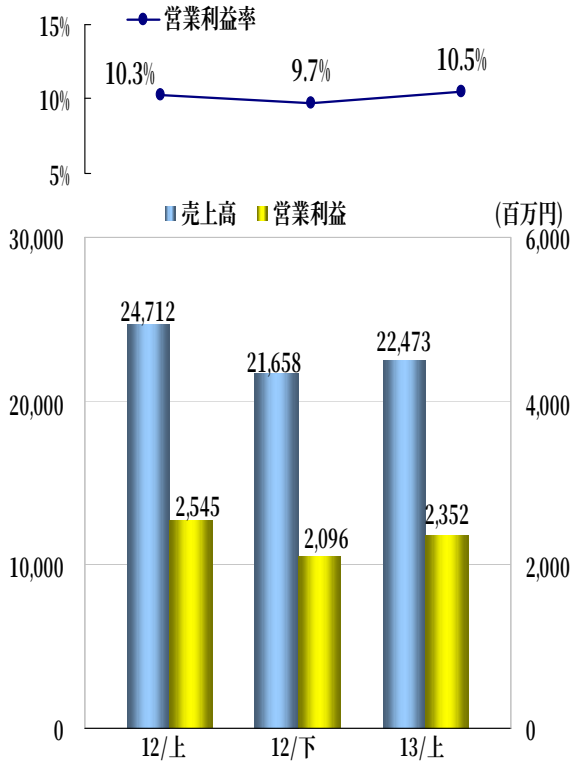


KINUGAWA

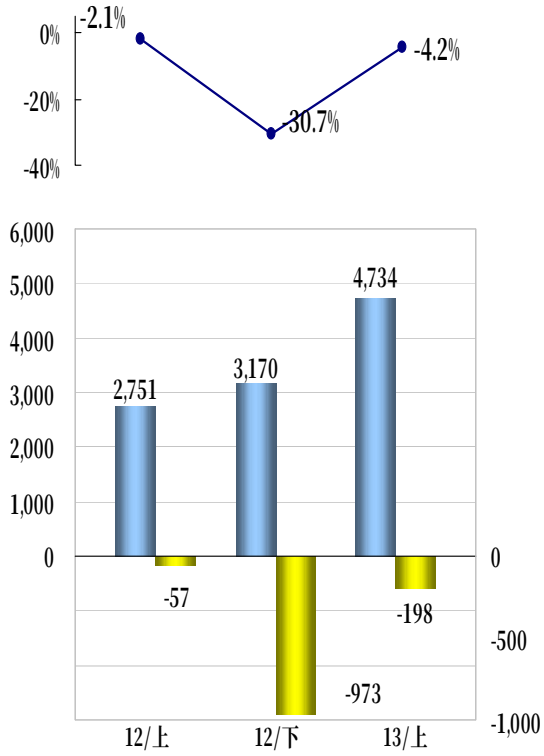
所在地別の状況　半期毎の推移

- 国　内：改善活動により、利益率は向上
- 米　州：部品輸送コスト等の改善と生産性向上活動により赤字縮小
- アジア：増収増益

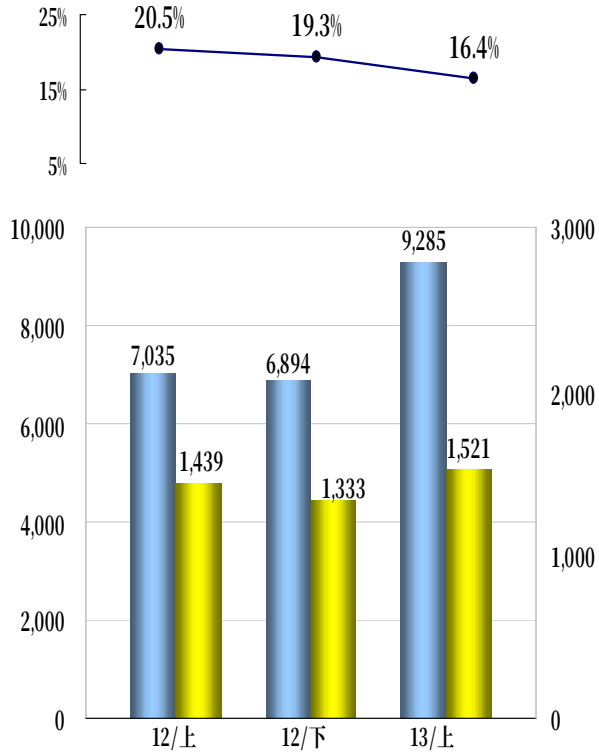
日本



米州



アジア



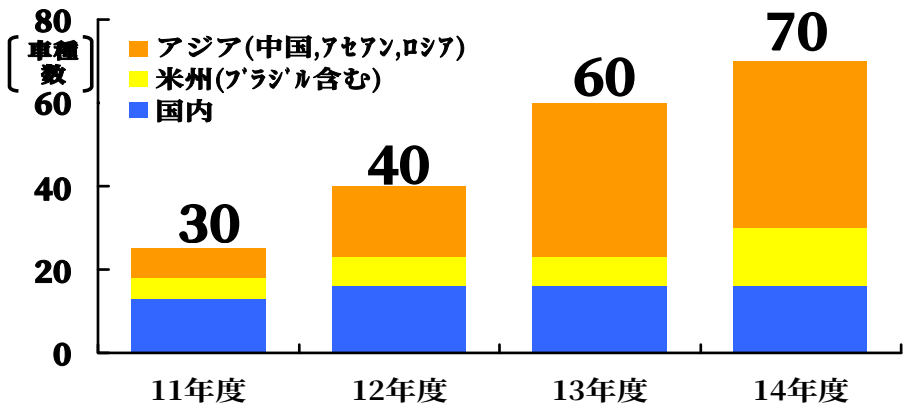
KINUGAWA

2013年度 主な収益改善活動

➢ クロスファンクションチームによる生産方式の海外拠点展開

■ クロスファンクションチームを結成し、日本ベンチマークの生産方式を海外拠点に展開
- 生産リードタイムを短縮
- ＬＣＡ(ローコストオートメーション)による生産性向上
- 省スペース化
- 歩留の向上

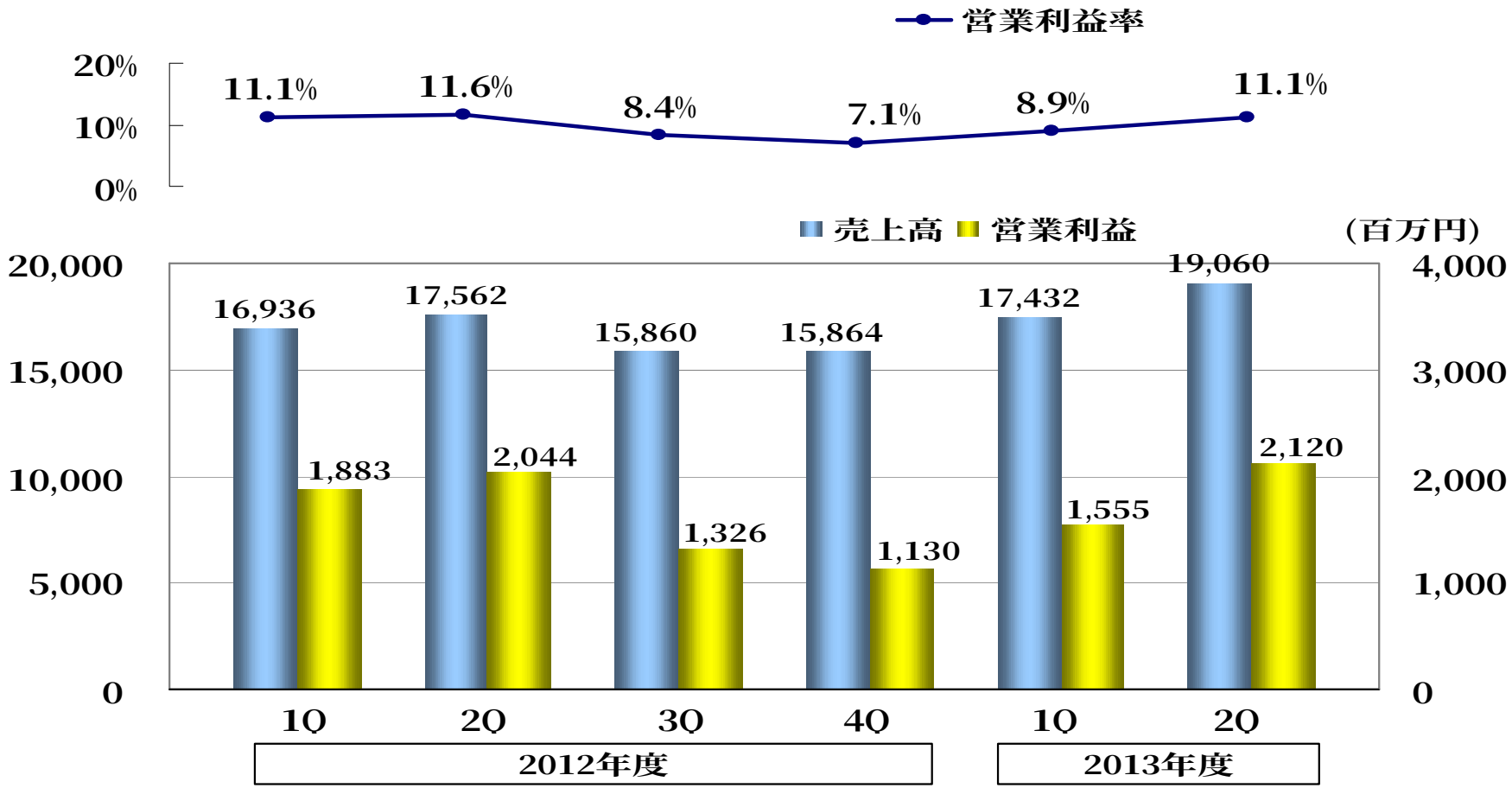
立上げ車種数の推移



■ 原材料の現地化・汎用化によるグローバル最適調達の推進

四半期決算推移（グローバル）

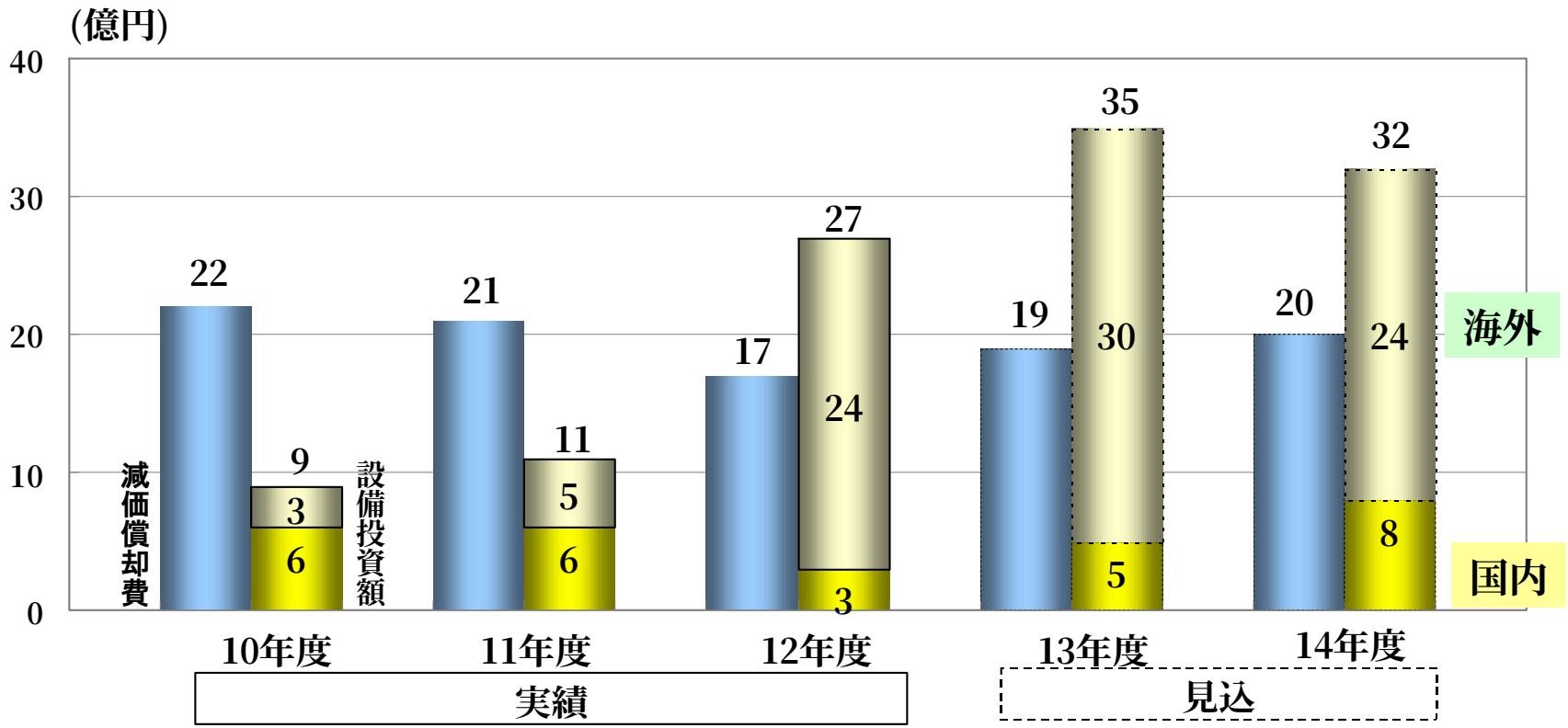
- 生産リードタイム短縮、ローコストオートメーション、省スペース化、材料歩留向上等の改善活動をグローバルに展開することにより、利益率を大幅に改善



KINUGAWA

減価償却費・設備投資推移

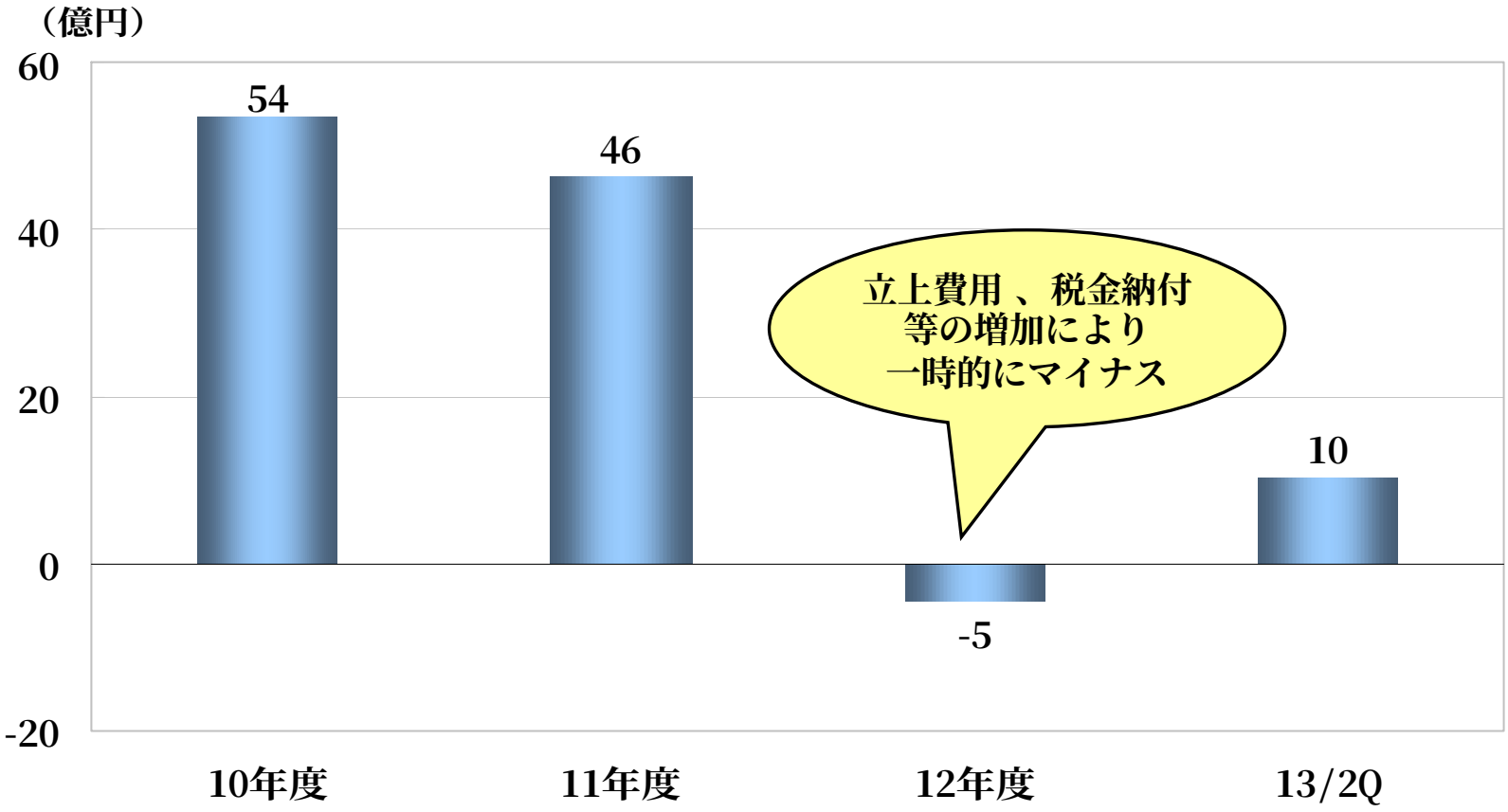
- 海外拠点拡大のため、米州・アジアを中心に約35億円の投資を計画
- 投資圧縮の取組み
  ①段階投資・設備の現地調達化
  ②設備稼働率改善による現有設備能力の向上



KINUGAWA

フリーキャッシュフロー推移

- グローバルで生産拠点の拡大を実施しているが、設備の現地調達化・国内設備の活用等、効率的な投資により営業キャッシュフローの範囲内で投資を賄っている



2013年度　業績見通し

2013年度業績見通し

1. 売上高

- 主に米州・アジア地域の受注増・生産増により増収を見込む

2. 利　益

- 増収に伴う操業度の増加、一過性費用の減少、グループ構造改革の推進により増益を見込む

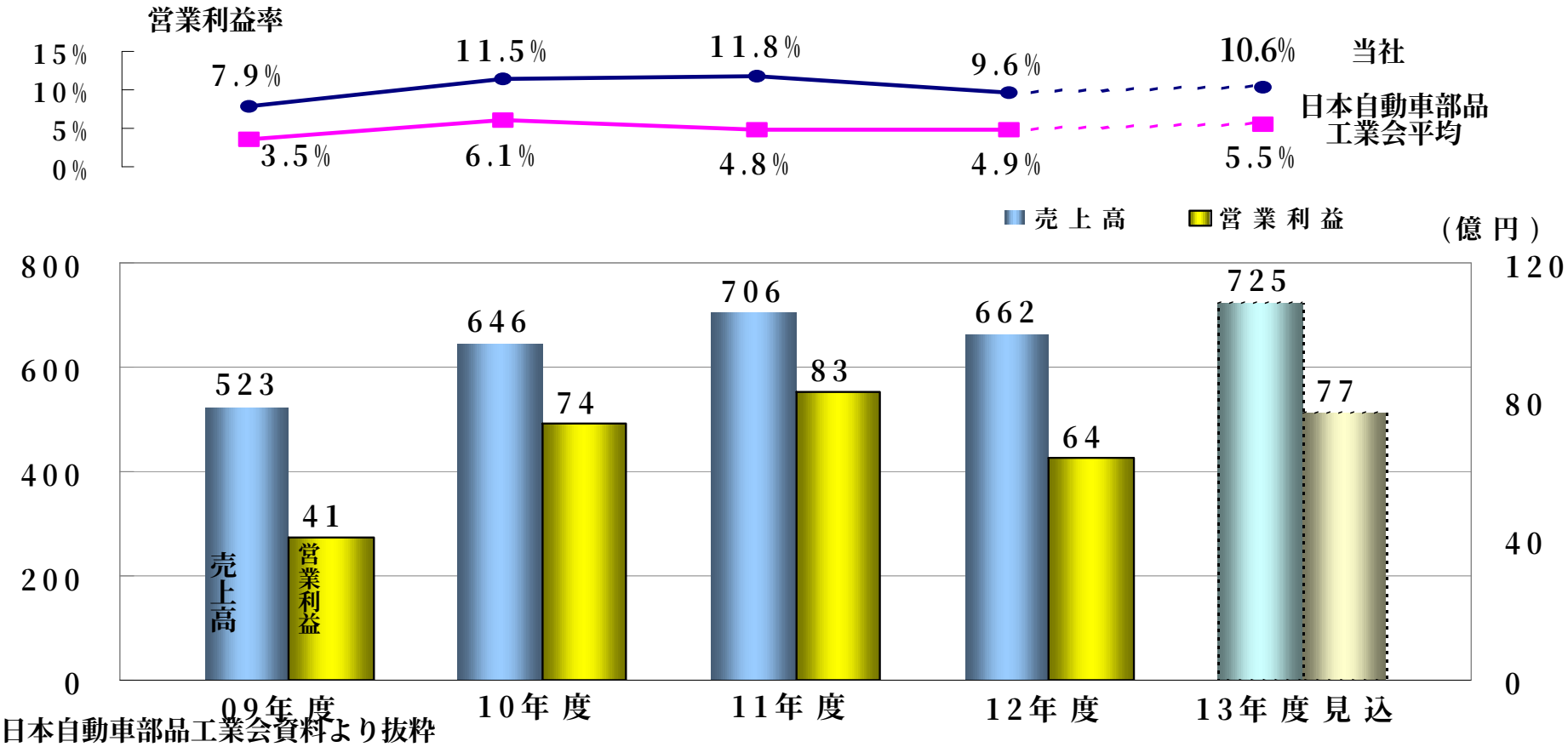
3. 地域別業績

- 日　本：減収減益となる見通しだが、モノ造り改善継続により挽回を図る
- 米　州：輸送費等の一過性費用減少と生産性向上活動により黒字化を目指す
- アジア：中国の生産台数回復等により増収増益の見通し

KINUGAWA

2013年度 連結業績予想

- 売上高：米州・アジアの生産台数増加などにより増収の見込み
- 利　益：新車立上げに伴う一過性費用の減少、グループ構造改革の推進により、増益の見込み



日本自動車部品工業会資料より抜粋

KINUGAWA

1. 2013年度
第2四半期決算状況と業績見通し

2. 取組み

KINUGAWA

2013年度の取組み

１.短期収益の向上

モノ造りの継続した改善【生産リードタイム短縮と在庫の極少化】

1)セル生産方式の更なる改善　<混流セル生産システム>

2)工程間の直結化　<中間在庫“０”化>

3)LCA（ローコストオートメーション）　<生産性向上>

２.売上の拡大

顧客対応力、開発力の強化により受注拡大を図る

1)地域毎に主要顧客を設定し受注を拡大

2)防振部品、ホース部品の受注拡大

メキシコ、中国、台湾、タイ、インド

３.仕事の質の向上

モノ造りのレベルアップ３つの重点活動の海外展開

【1.拠点/設備の立上げ、2.新車の立上げ、3.拠点運営】

1)標準マニュアルによる継続反復したグローバル教育の実施

2)CFT（ｸﾛｽ ﾌｧﾝｸｼｮﾝ ﾁｰﾑ）よる集中改善と拠点自立化の推進

3)お客様に安心して頂ける品質と供給体制の構築（ブランド力強化）

1).短期収益の向上

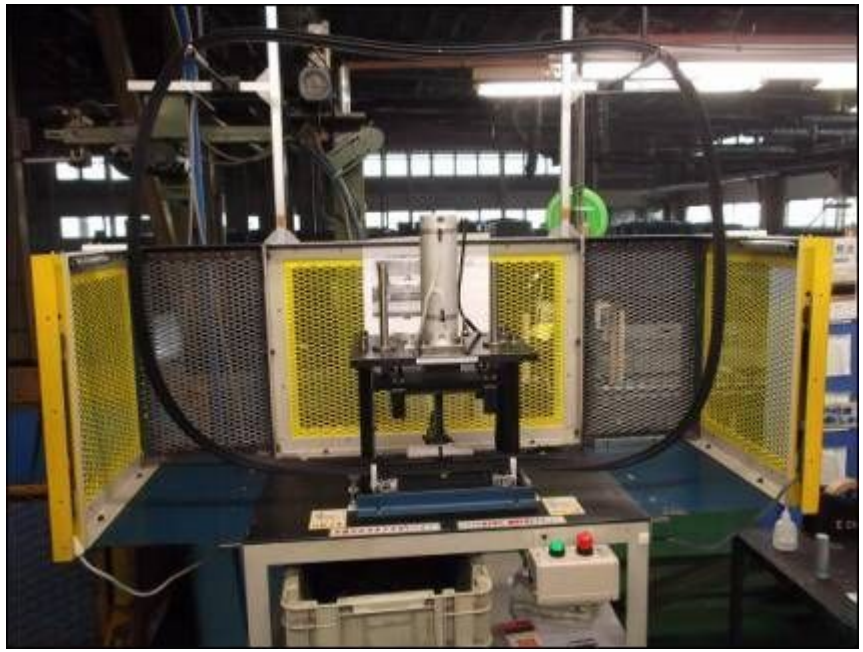
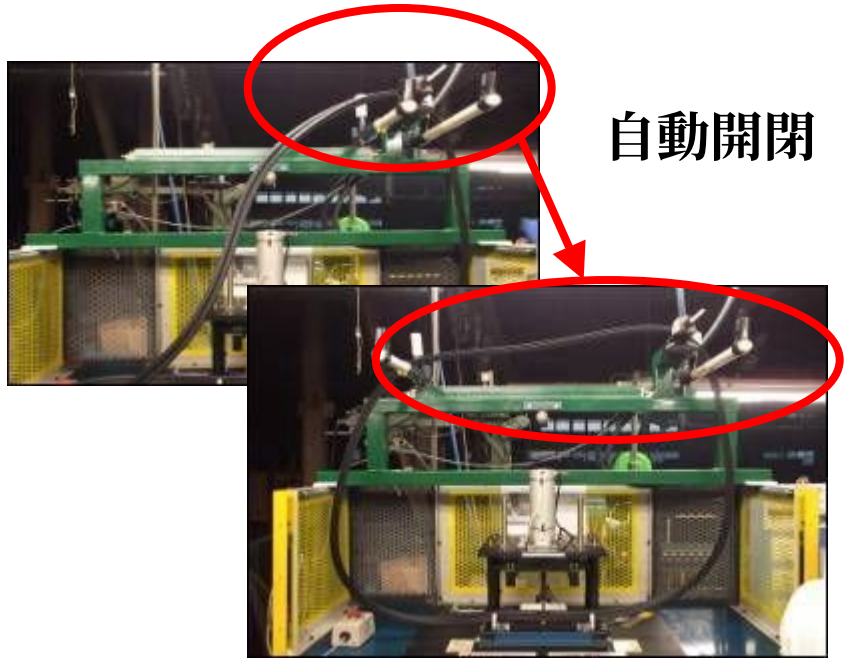
モノ造りの継続した改善

【生産リードタイム短縮と在庫の極少化】

KINUGAWA

2013年度の取組み　（キヌガワ大分）

➢ 長物部品の加工作業改善　LCA(ﾛｰ ｺｽﾄ ｵｰﾄﾒｰｼｮﾝ)

	改善前	改善後
概要	裁断加工作業でハンガー掛け作業が２回(左右)発生している。 *背伸び作業により作業性が悪い	製品の一箇所をハンガーに掛け自動にて広げることにより作業しやすさと作業時間が短縮。
略図		

改善効果：生産性の向上と重作業の削減

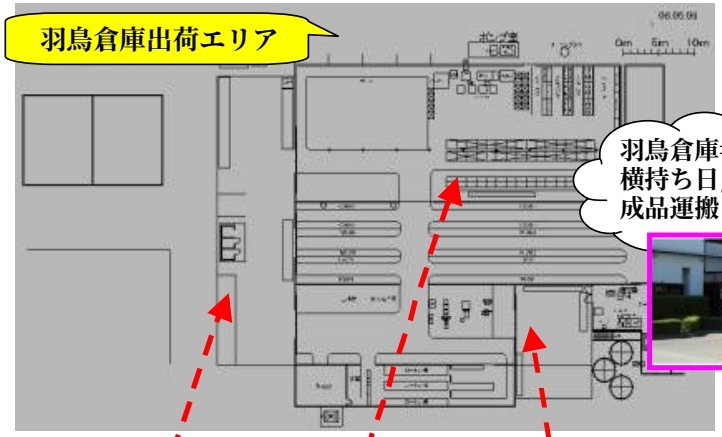
KINUGAWA

2013年度の取組み　（ナリタ合成）

➢ 納入リードタイム短縮・在庫削減・スペース削減⇒完成品保管倉庫廃止

改善前

敷地面積　3,769 m2

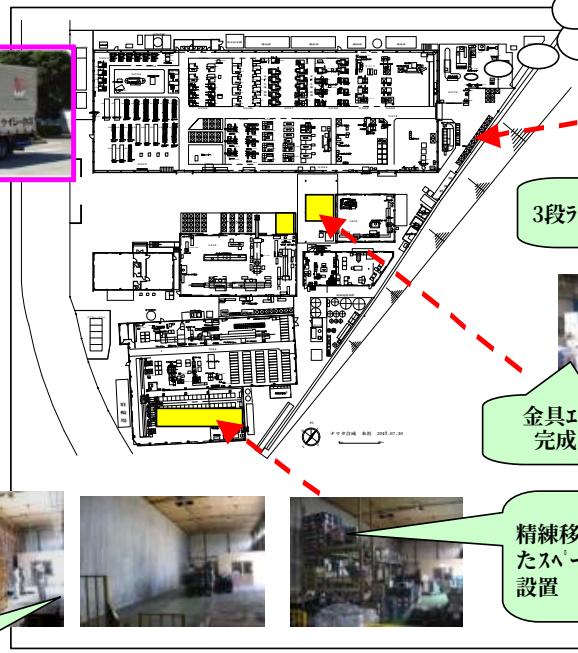


羽鳥倉庫⇒本社
横持ち日/5回完
成品運搬

精練移動倉庫
動かない物整理・処分し、
4列（360ﾊﾟﾚ）→2列（180ﾊﾟﾚ）
⇒スペース半減

改善後

1）羽鳥倉庫を閉鎖し納入リードタイム短縮
2）節を減らし完成品在庫を削減
3）製品移動時間ゼロ物流費削減
4）スペース効率を上げ、ムダなく使用
5）梱包作業を集約して人員を削減



倉庫人員6名
⇒本社移動後
4名省人⇒2名

3段ﾗｯｸを設置

金具ｴﾘｱを縮小し、
完成品ｴﾘｱを確保

精練移動倉庫の空い
たｽﾍﾟｰｽに3段ﾗｯｸを
設置

効果：2百万円/月間

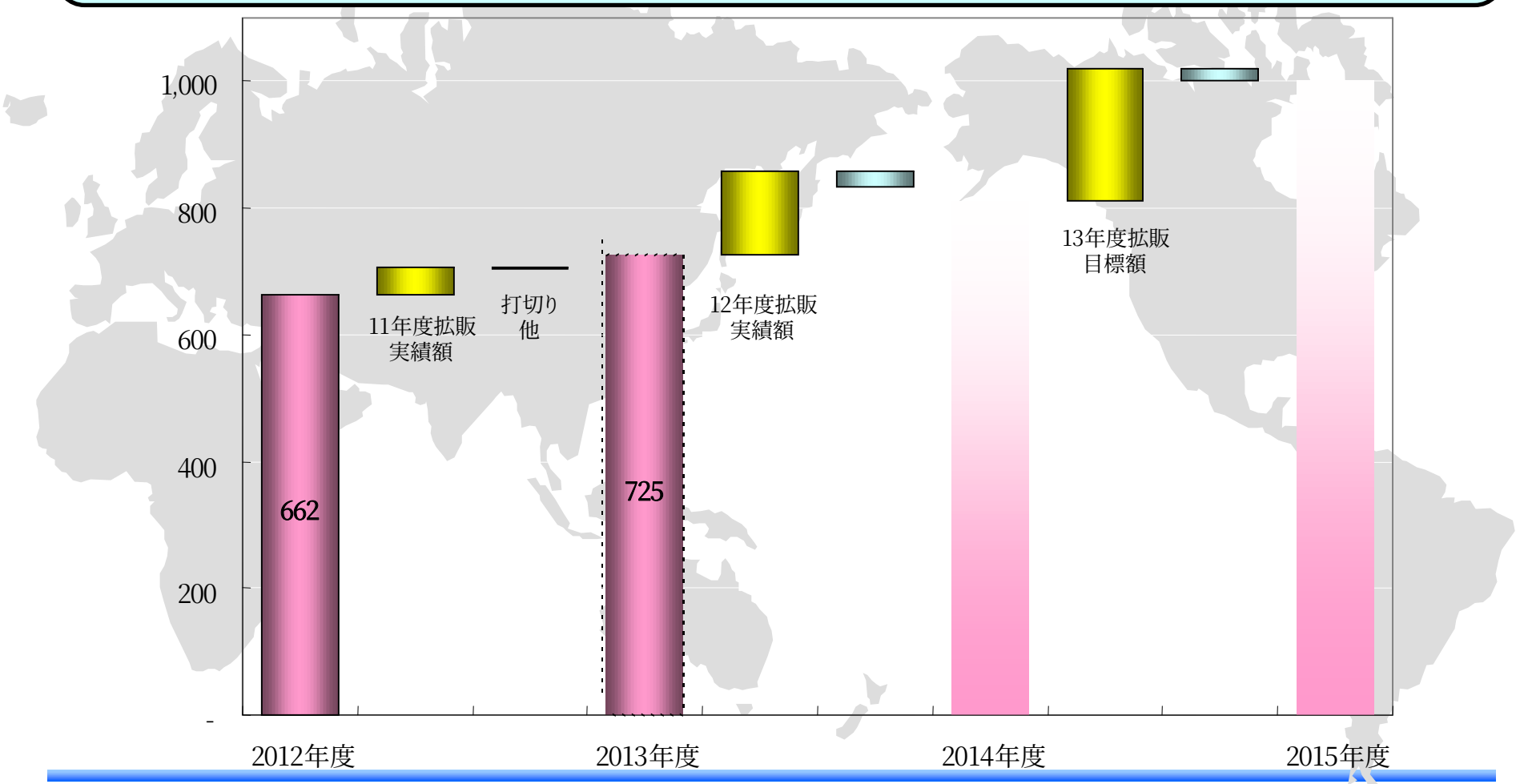
KINUGAWA

2).売上の拡大

『生産拠点の新設と生産能力の増強』

2013年度の取組み　拡販状況

- 顧客対応力の強化、製品開発力の強化により既存顧客・新規顧客への拡販を実施
- 主要拠点は車体シール部品に加えて、ホース・防振部品の受注を図る



3).仕事の質の向上

『業務改革』

・新規拠点、新車の立上げの改善

・拠点運営の改善

KINUGAWA

2013年度の重点課題　業務改革の重点方策

➢ 鬼怒川グループのモノ造りレベルアップの3つの重点活動を推進
【1.拠点・設備の立上げ、2.新車の立上げ、3.拠点運営】

1. 新拠点・設備の立上げ

- グローバル工程の同一化を図る（国内工場と全く同じ工程・設備・金型を新拠点に導入）

2. 新車の立上げ

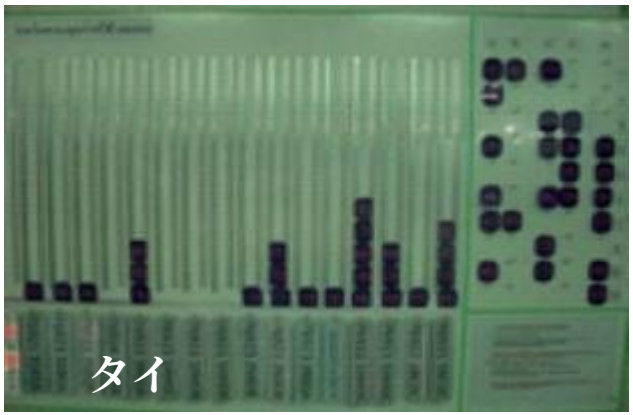
- 本社主導でグローバル標準生産準備マニュアルに基づき、各拠点の担当者が生産準備をスムーズに実行できる体制を整備する

3. 拠点運営

- モノ造り、生産技術、生産管理、マネジメントは、標準化し徹底した拠点の自主自立化を推進する
- 管理指標の一元化と見える化をグローバルで教育し拠点運営の底上げを行う

2013年度の取組み　拠点運営の改善【見える化】

➢ 生産管理改善 [押出素材の先入先出]～チップ管理の実施例



国内の生産管理（生産の見える化)の仕組みを全拠点に展開

KINUGAWA

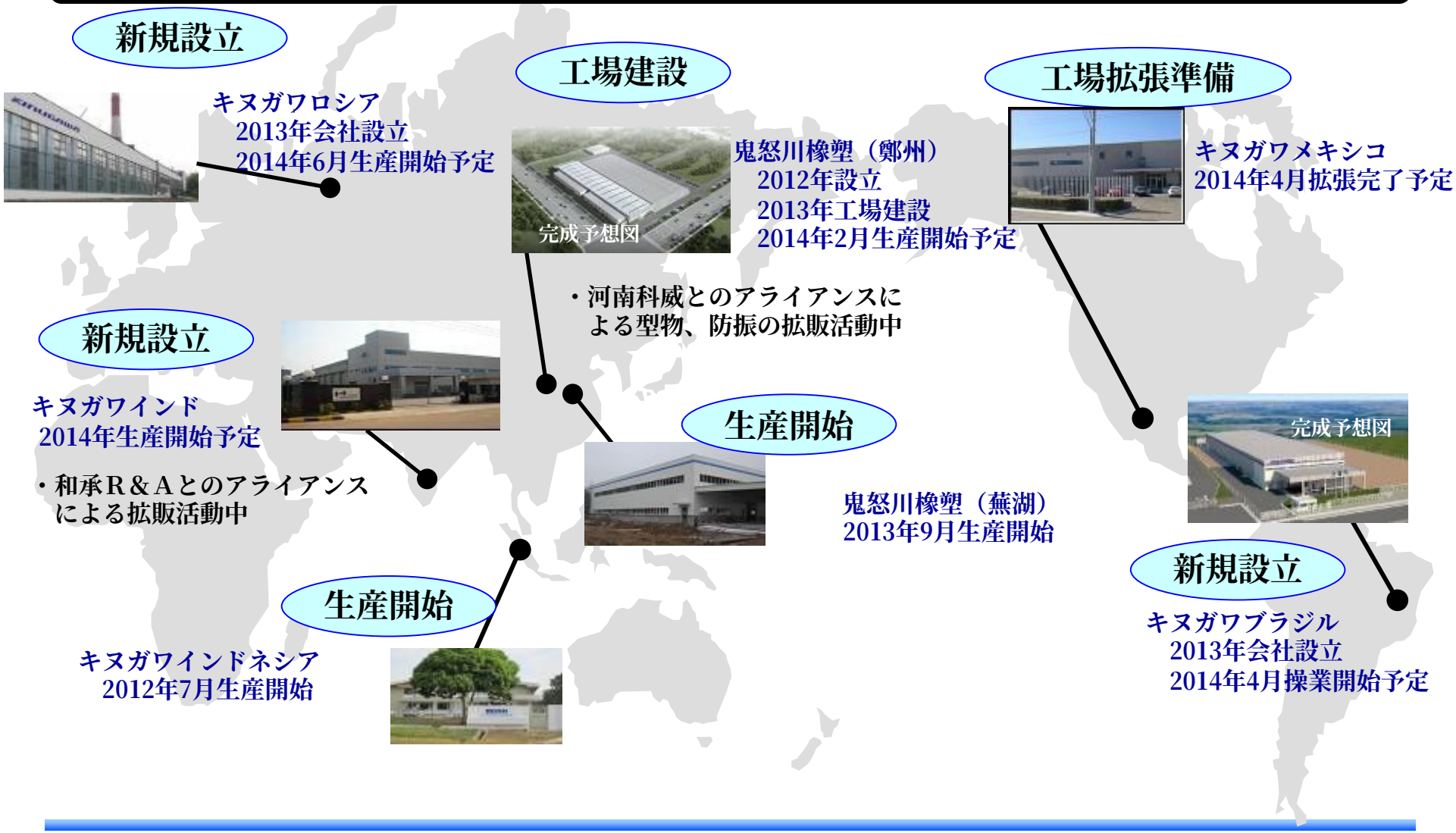
4).拠点展開

『2013年度　新規拠点の展開』

KINUGAWA

2013年度 新規拠点の展開　準備状況

➢ 新規拠点での受注、既存拠点の増強により売上の継続的拡大を図る

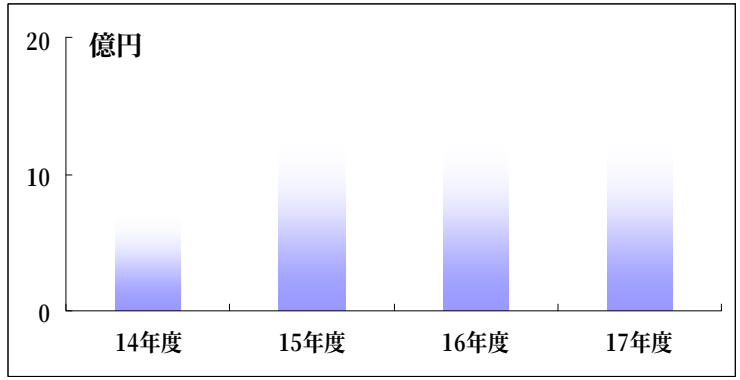


KINUGAWA

2013年度 新規拠点の展開　ブラジル(キヌガワブラジル)

➢ 米州３番目の生産拠点　2014年4月生産開始

売 上 計 画



	2013年												2014年					
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
会社設立		★会社登記																
建屋建設			基本設計・申請			建築工事								★				
設備設置（押出し設備）					設備製作						郡山	輸送	試運転					
設備設置（成型設備）								設備製作			輸送	試運転						
量産準備								採用・研修（郡山）					立上げ準備			○量産開始		

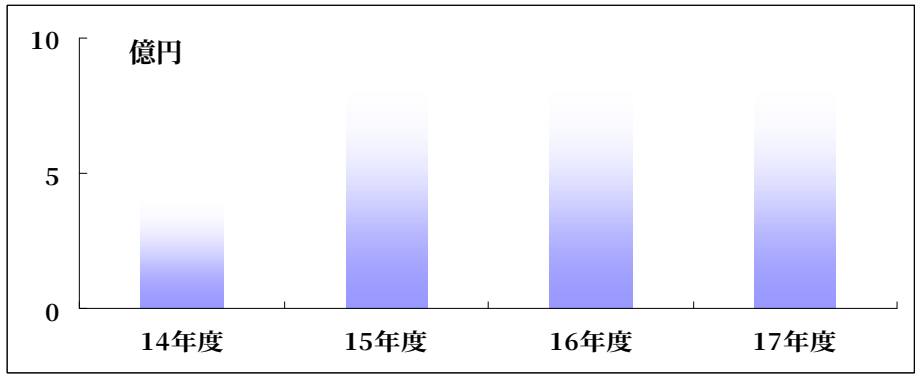
日産サプライヤーパーク内に押出・成形・仕上の一貫工場を建設

KINUGAWA

2013年度 新規拠点の展開　ロシア（キヌガワロシア）

➢ 欧州１番目の生産拠点　2014年6月生産開始

売 上 計 画



	2013年									2014年								
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
会社設立	★ 会社登記																	
建屋準備　レンタル						改修		★ 建屋整備完了										
設備設置（成型機）					移設準備		輸送		設置									
量産準備						採用・研修				生産準備					○ 量産開始			

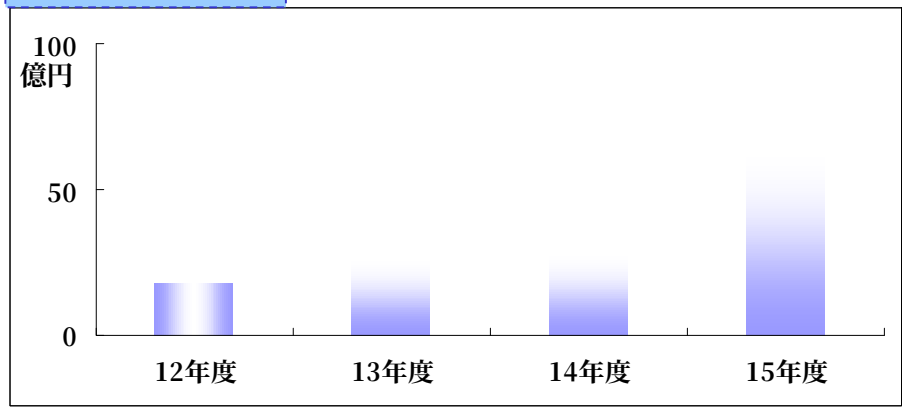
ロシア進出サイト：客先の敷地内で成形・仕上

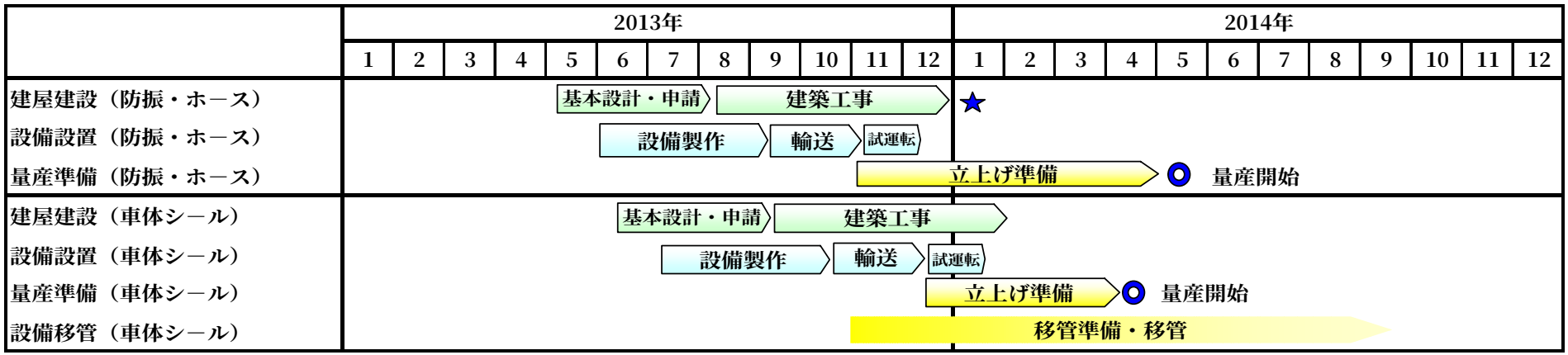
KINUGAWA

2013年度 新規拠点の展開　メキシコ(拠点の拡大)

➢ 2014年5月より防振部品、ホース部品を生産開始

売上計画





車体シール部品だけではなく、ホース部品、 防振部品も現地化し、
米州全土向けの販売を目指す

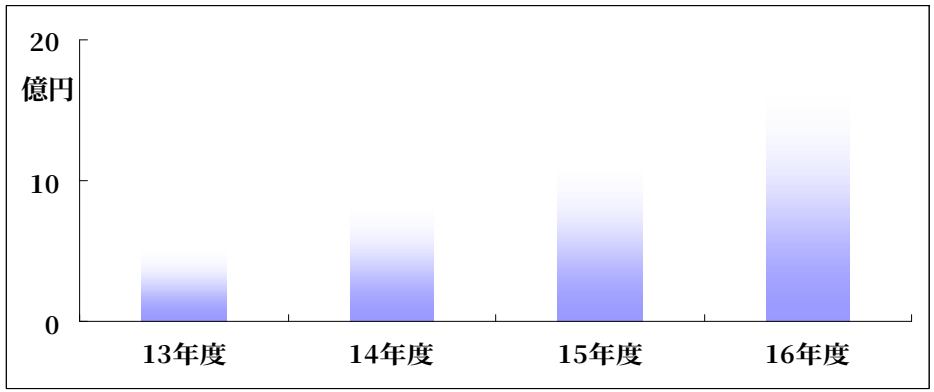
KINUGAWA

2013年度 新規拠点の展開　中国鄭州(鬼怒川鄭州)

➢ 中国鄭州地区 2014年2月より車体シール・型物部品を生産開始

鄭州工場最終完成予想図

売上計画



		2013年									2014年					
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
会社設立	★ 会社登記（12/12）															
建屋準備	建設（第一期）							★ 建築整備完了								
設備設置（成形機）				移設準備	輸送	設置										
量産準備			採用・研修					生産準備				◎ 量産開始				

KINUGAWA

中期経営計画達成の見通し

1）売上高の見通し
2）利益の見通し

2015年度目標（売上高・営業利益）

売　上　高；1,000億円以上
営業利益額；　120億円以上

（2011年11月発表）

KINUGAWA

中期経営計画の進捗状況

売上高の見通し

- 車体シール部品以外に防振・型物部品・ホース部品を海外拡販（中国・アセアン・米州）することにより、売上高の目標達成を目指す

利益の見通し

- グローバル改善活動の定着とレベルアップ、
- 海外新拠点の着実な立上げ、
- モノ造り改善・資材・部品の現地化・汎用化、設備の有効活用、

等により、営業利益額の目標達成を目指す

KINUGAWA

拡販の取組み

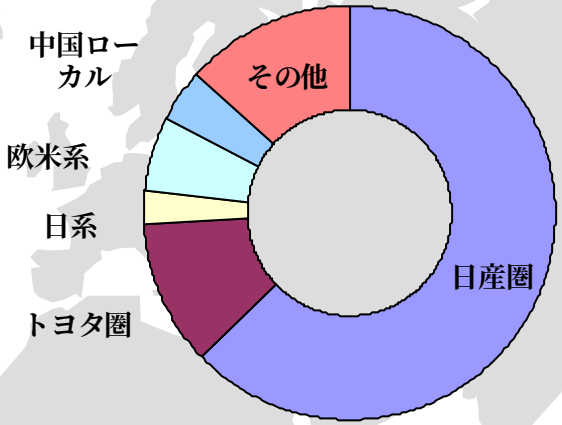
『地域別拡販状況』

『製品群別拡販状況』

拡販状況

➢ 主要カーメーカー（日系、欧米系）に対する拡販活動を実施し、
2015年度　売上高　1,000億円を目指す

重点カーメーカーへの拡販



15年メーカー別シェア予測

カーメーカー	拡販対象部品			
	車体シール	防振	一般型物	ホース
日系A社	○		○	○
日系B社	○	○	○	○
欧米系A社	○		◌	◌
欧米系B社	○	◌	◌	◌
欧米系C社	○		◌	◌

○13年度、◌14年度以降

車体シール部品

主な受注

日系・欧米系；
中国・メキシコ
ロシア・ブラジル他

ホース部品

日系；
中国・メキシコ
インド・タイ

防振部品

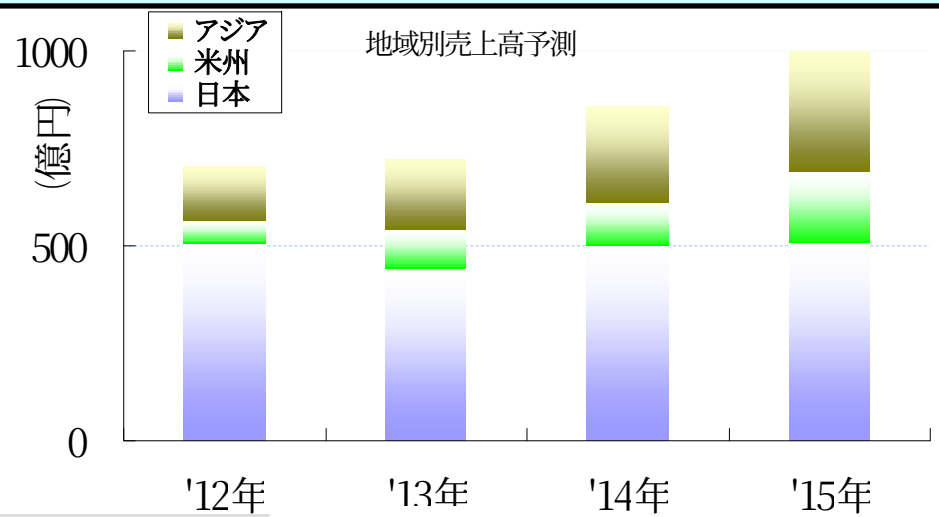
日系･民族系；
中国･台湾･メキシコ･タイ

KINUGAWA

地域別売上推移

➢ 顧客対応力の強化、新規拠点での受注拡大により売上の継続的拡大を図る

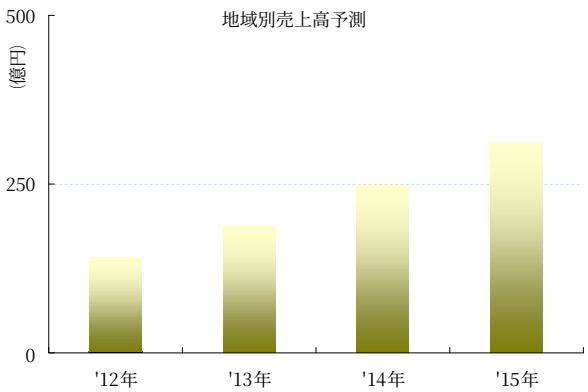
グローバル

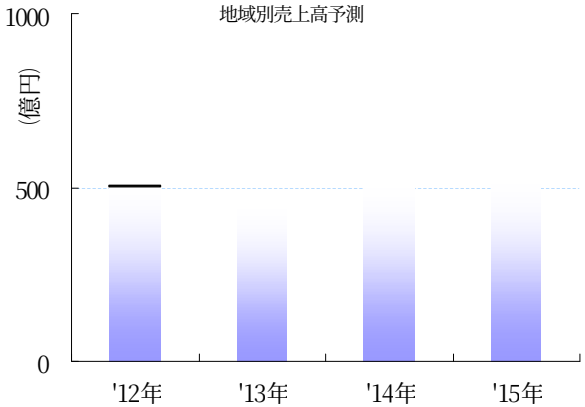


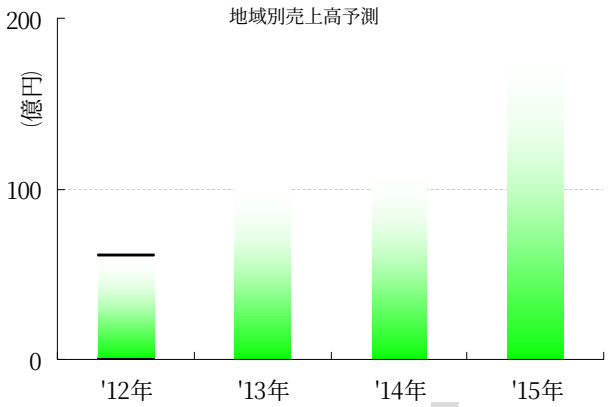
アセアン

日　本

米　州



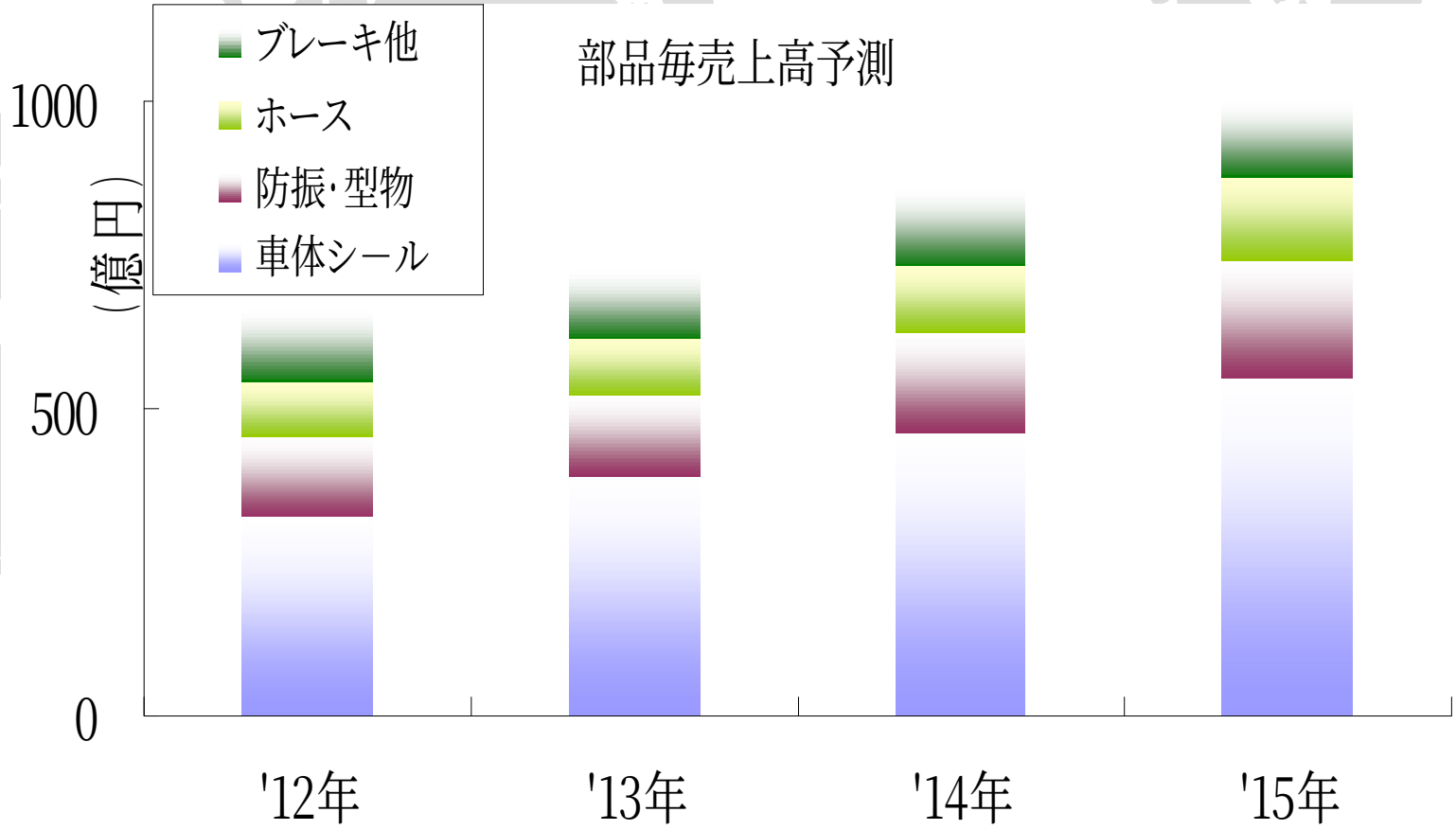




KINUGAWA

製品別売上推移

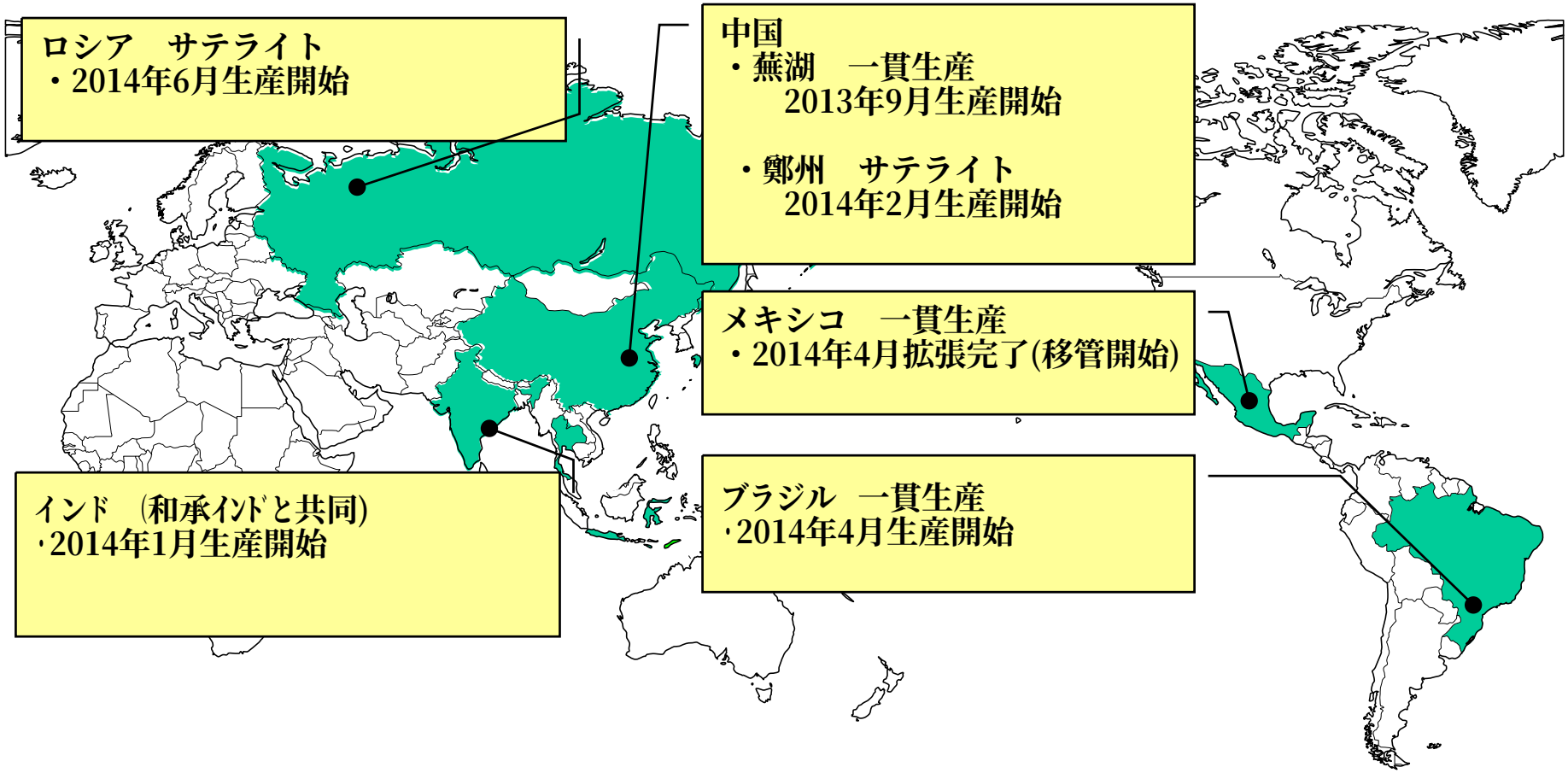
➢ 海外拠点でのホース・防振・型物部品受注を強化・拡大



KINUGAWA

車体シール部品の拡大

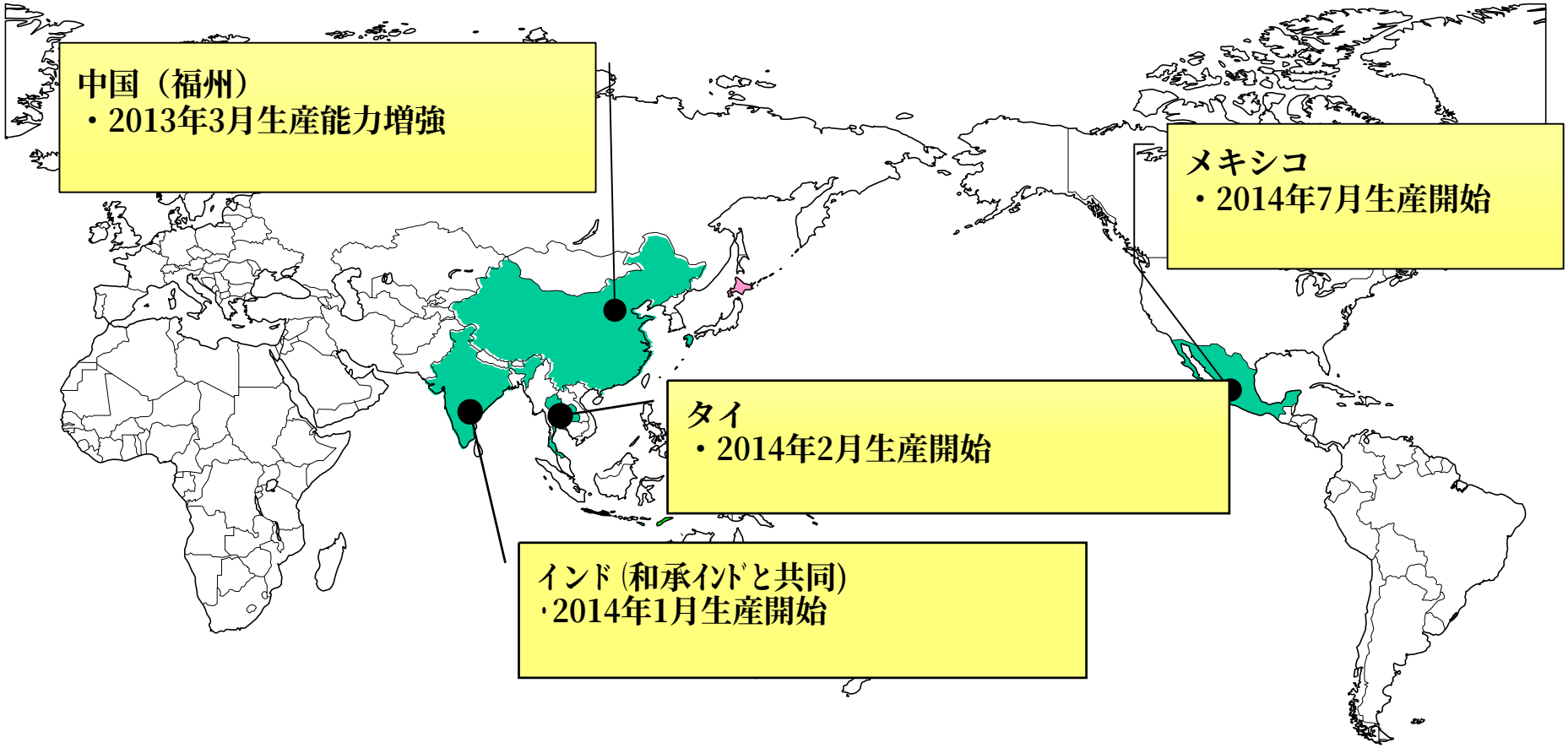
- 輸送効率の最適化を図り、主要得意先の近隣で生産
- 生産規模は、客先の生産量に応じた進出形態



KINUGAWA

ホース部品の拡大

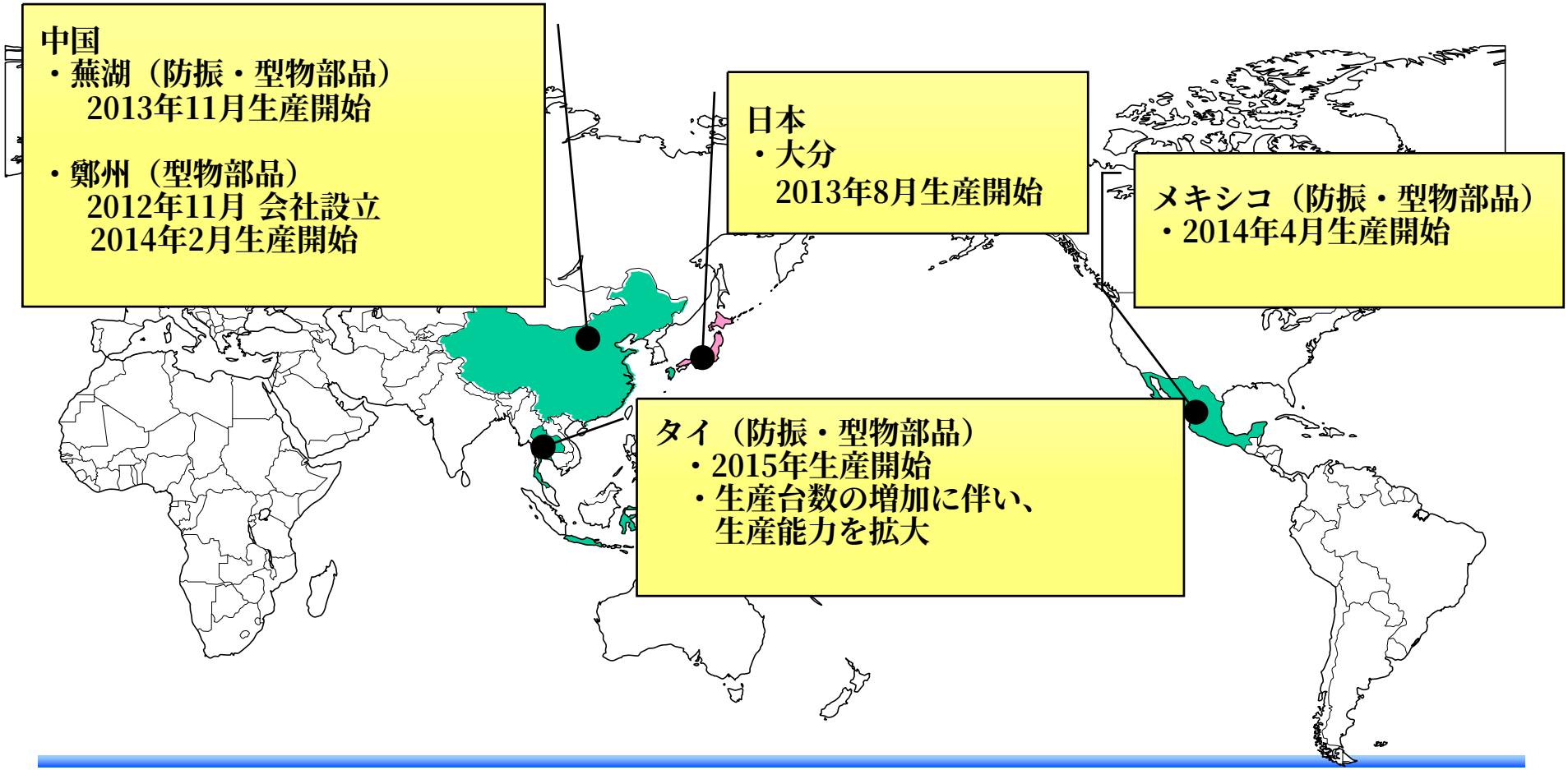
➢新拠点展開と増強で現地化を推進



KINUGAWA

防振・型物部品の拡大

➢主要得意先の生産量増加に合わせ新拠点展開を開始し現地化を推進



KINUGAWA

ホース部品の生産準備状況

中国

メキシコ

インド

2013年11月
設備設置

タイ

KINUGAWA

技術開発の取組み
『環境に優しい製品の開発（樹脂化)』

KINUGAWA

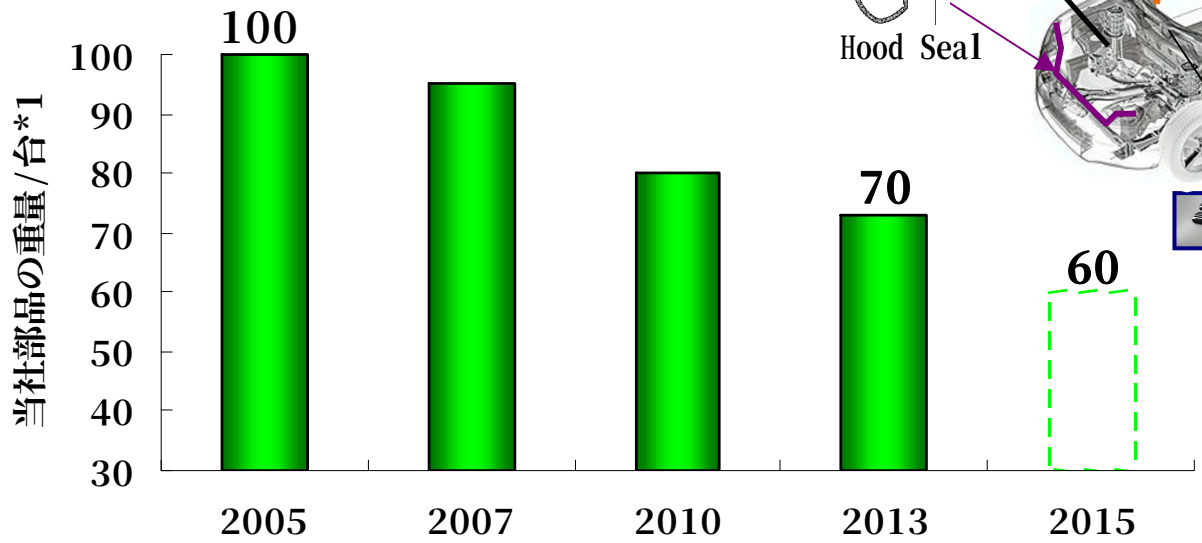
技術開発～環境に優しい製品の開発

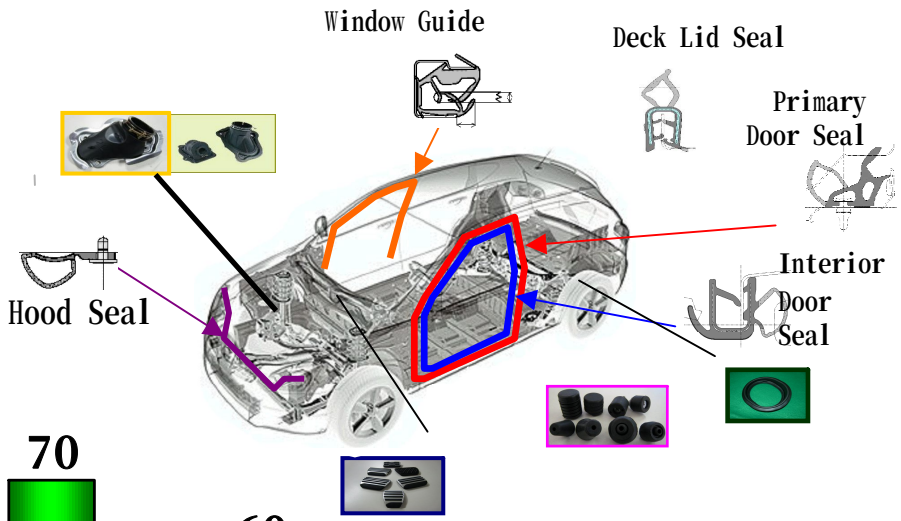
➢ 樹脂化と製品開発（小型化）の推進により、2005年より約30%の軽量化（当社比）を達成、部品の軽量化促進で、自動車のエネルギー効率UPに貢献

部品の軽量化

■ 素材の軽量化(ゴムから軽量樹脂への変換)

■ 部品の小型化（徹底的な必要部分の追求）





＊1　当社製品2005年重量を100としたときの比

更なる軽量化に向け機能部品の樹脂化、小型化を推進。

KINUGAWA

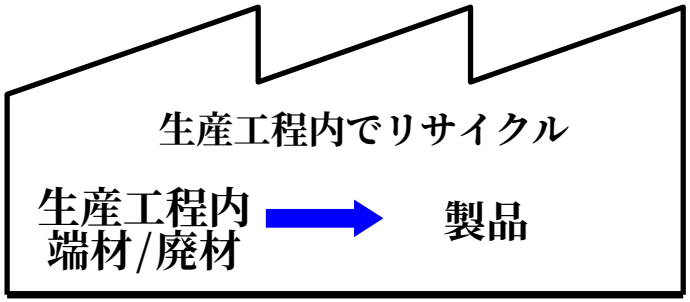
技術開発～環境に優しい製品の開発

➢ エネルギー使用量が少ない樹脂化の推進により、省エネ(製造電力削減）を図り、資源の有効活用に貢献する

リサイクルの促進

■ 素材の変換
（ゴムからリサイクル容易な樹脂へ）

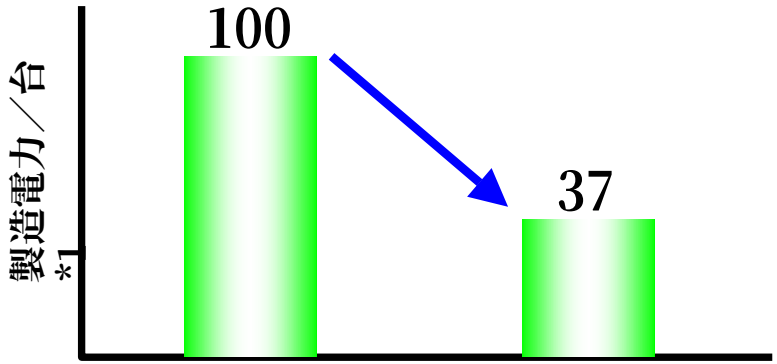
■ 生産工程内で発生した端材・廃材をリサイクル



製造電力の削減

■ 素材の変換
（ゴムから加工容易な樹脂へ）

■ 各工程の生産サイクル短縮



ゴム製グラスラン*2　樹脂製グラスラン*2

＊1 ゴム製グラスランの当社製造電力を１００としたときの比
＊2 グラスラン一台分の電力消費量の比（＊1）

生産工程内リサイクルや省エネ資材(樹脂）への変換により、廃却物最終処分量と製造電力量を５０％以上削減。(2005年当社比)

KINUGAWA

配当

① 期末配当は以下を予定しています。
26年3月期予想；第2四半期末 4円、期末 4円、合計 8円

② 株主還元指標
DOE：株主資本配当率(*) を2～3%とし、
今後も会社業績に応じた適切な株主還元を継続致します。

(*)=配当総額÷株主資本

	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度
当期純利益（百万円）	2,977	4,467	5,300	3,975	4,500
1株当たり当期純利益（円）	44.35	66.56	79.16	59.13	66.94
1株当たり配当金（円）	4.00	5.00	6.00	8.00	8.00
DOE；株主資本配当率	2.5	2.3	2.0	2.3	2.0

ＪＰＸ日経インデックス４００採用

➢ 構造改革とモノ造り改善に取組み、更なる企業価値の向上を推進

・『投資家にとって投資魅力の高い会社』で構成される新しい株価指数である

【ＪＰＸ日経インデックス４００】に、当社が採用されました。

*開始は、来年１月６日からになります。

JPX日経インデックス400構成銘柄（平成26年1月6日時点）

平成25年11月6日公表

構成銘柄数：400銘柄

（注1） 銘柄数は、上場廃止等に伴い、今後変動する可能性があります。

（注2） 各銘柄のキャップ調整後浮動株比率につきましては、決定次第公表します。

（注3） 市場区分の表記については、市場第一部=1、市場第二部=2、マザーズ=M、JASDAQ=Jとしております。

コード	市場区分	銘柄名	コード	市場区分	銘柄名
1417	1	ミライト・ホールディングス	3765	J	ガンホー・オンライン・エンターテイメント
1605	1	国際石油開発帝石	3774	1	インターネットイニシアティブ
1721	1	コムシスホールディングス	3861	1	王子ホールディングス
1722	1	ミサワホーム	3941	1	レンゴー
1801	1	大成建設	4004	1	昭和電工
5101	1	横浜ゴム	6869	1	シスメックス
5105	1	東洋ゴム工業	6902	1	デンソー
5108	1	ブリヂストン	6923	1	スタンレー電気
5110	1	住友ゴム工業	6954	1	ファナック
5196	1	鬼怒川ゴム工業	6965	1	浜松ホトニクス
5201	1	旭硝子	6971	1	京セラ
5214	1	日本電気硝子	6981	1	村田製作所
5233	1	太平洋セメント	6988	1	日東電工
5332	1	TOTO	7004	1	日立造船
5334	1	日本特殊陶業	7011	1	三菱重工業
5393	1	ニチアス	7012	1	川崎重工業
5401	1	新日鐵住金	7013	1	IHI
5411	1	ジェイエフイーホールディングス	7201	1	日産自動車
5471	1	大同特殊鋼	7202	1	いすゞ自動車
5486	1	日立金属	7203	1	トヨタ自動車
5631	1	日本製鋼所	7205	1	日野自動車
5706	1	三井金属鉱業	7211	1	三菱自動車工業
5711	1	三菱マテリアル	7240	1	NOK
5713	1	住友金属鉱山	7242	1	カヤバ工業
5714	1	DOWAホールディングス	7245	1	大同メタル工業
5802	1	住友電気工業	7246	1	プレス工業
5857	1	アサヒホールディングス	7248	1	カルソニックカンセイ
6702	1	富士通	8015	1	豊田通商

Copyright © 2013- by Japan Exchange Group, Inc., Tokyo Stock Exchange, Inc., and Nikkei Inc. All rights reserved

引用：東京証券取引所ＨＰ

KINUGAWA

本書には、当社および/または当社グループに関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは当社が現在入手している情報に基づく、本書作成時点における予測等を基礎として記載されています。また、これらの記述のためには、一定の前提（仮定）を使用しております。これらの記述または前提（仮定）は主観的なものであり、将来において不正確であることが判明したり、将来実現しない可能性があります。実際の業績は、今後様々な要因により業績予想と異なる結果となる可能性があります。このような事態の原因となりうる不確実性やリスクは多数ありますが、これらに関する追加情報については、当社の有価証券報告書、短信等開示書類、プレスリリース等をご参照ください。

本書は、情報提供を目的とするものであり、投資勧誘を目的としているものではありません。

本書に記載されている当社ないしは当社グループ以外の企業等にかかわる情報は、公開情報等から引用したものです。情報の正確性・適切性等について、当社は何らの検証を行っておらず、またこれを保証するものではありません。

ご照会等は、下記までお願いいたします。

■鬼怒川ゴム工業株式会社　経営企画室

電話：043-259-3111（代表）

E-mail：kinugawa-ir@kinugawa-rubber.co.jp

■ホームページのご案内

URL：http://www.kinugawa-rubber.co.jp/index.html

《IR情報》http://www.kinugawa-rubber.co.jp/investor/

KINUGAWA

KINUGAWA